

わが国の大学生における踵骨音響的骨評価値と 生活習慣との関連性

イ フカ 井深	エイジ 英治*	オオイダ 大井田	タカシ 隆*	ミヤケ 三宅	タケオ 健夫*	スズキ 鈴木	ケンシュウ 健修*
モトジマ 元島	キヨカ 清香*	ハラノ 原野	サトル 悟*	ヨコヤマ 横山	ヒデヨ 英世*	カネイタ 兼板	ヨシタカ 佳孝*
カネコ 金子	アキヨ 明代*	タケダ 武田	フミ 文 ^{2*}				

目的 わが国の大学生のライフスタイルは健全とは言えず、将来の骨量低下が危惧されている状況である。しかし、この時期の生活習慣と骨量の関連性に関する研究は少なく、とくに男子の骨量に関するものはみられない。そこで、本研究は大学生の骨量と生活習慣との関連性を検討することを目的としている。また、本研究では女性ホルモンの影響を受けない男性についても検討をすることで、骨量と生活習慣の関連性をより明確にできることを期待した。

方法 大学生の男女合計766人を対象に超音波法（ALOKA社製 AOS-100）を用いて踵骨音響的骨評価値の測定をし、さらに体格測定、生活習慣と食生活の調査、血液検査を行い、それらとの関連性について検討した。

結果 踵骨音響的骨評価値と身長、体重、BMI、体脂肪率、握力といった体格因子との関連性は男子より女子で強かった。さらに重回帰分析を用い、OSIを目的変数として体格、生活習慣と食生活、血液検査項目を説明変数として分析すると、男女とも定期的な運動習慣の有無がOSIと強い関連性を示した。また、男子ではアルコール摂取群のOSIが非摂取群より有意に高く、その一方でOSIと肝機能値のALT（GPT）IU/lとは有意な負の相関があった。

結論 骨粗鬆症の1次予防にとって、男女とも定期的な運動習慣を継続することは非常に重要であると考えられた。また、飲酒群の骨量は非飲酒群より有意に高かったが、飲酒頻度が増えて肝機能に影響を与えるほどになると骨量低下の可能性もあることが示唆された。

Key words : 大学生, 男子, 踵骨音響的骨評価値, 生活習慣, 飲酒習慣, 肝機能

* 日本大学医学部社会医学講座公衆衛生部門

^{2*} 筑波大学体育科学系保健社会学

連絡先：〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町
30-1 日本大学医学部社会医学講座公衆衛生部門
井深英治